

平成20年度第1回近畿ブロッククラブミーティング2008 開催報告

日 時：平成20年6月8日（日） 13：15～17：00

会 場：和歌山県立情報交流センターBig・U

和歌山県の県立情報交流センターBig・Uにて平成20年度第1回近畿ブロッククラブミーティング2008が開催された。近畿各府県の育成指定クラブ代表をはじめ、府県体育協会担当者、クラブ育成アドバイザー等51名が参加し、クラブ設立へ向けた課題や自主運営への展望について話し合った。グループディスカッション：情報提供では、先進クラブの2名の方から、「クラブ設立時の課題と設立後の展望」「クラブの設立と自主運営へ向けた取り組み」について発表があった。その後は、新規指定クラブと、継続指定クラブそれぞれにグループディスカッションを行い、クラブ創設へ向けた展望について熱心に話し合われた。

☆ グループディスカッション

情報提供 ☆

総合型クラブ創設に向けて先進クラブより話題提供を行った。新規育成指定クラブへのテーマとして「クラブ設立時の課題と設立後の展望」について、継続育成指定クラブへのテーマとして「クラブの設立と自主運営へ向けた取り組み」について発表があった。



◇ 「クラブの設立と自主運営へ向けた取り組み」

大阪教育大学スポーツクラブ（大阪府） 柴山 慧 氏

柴山氏からは、クラブ設立時における課題を中心にお話しいただいた。

3つのポイントについて情報提供いただいた。1つめは、設立準備段階においてなかなか進まなかったことに関して、クラブ設立に向けては、ハード面よりソフト面の充実が必要であること。こちらでは、クラブの準備段階で仕事として参加している人が多く停滞が生じたこと、また身軽に動けないメンバーが多くなかなか前に進まなかったことが報告された。そしてそれらが解消されると徐々に軌道にのっていったと話された。2つめは、クラブをうまく設立・運営していくためには、身の丈にあったクラブのサイズを考えること。はじめ壮大な計画を考えていたが、それだと「何でできないのか」になってしまう。クラブづくりは「できることはなんですか」から始めないといけないと教えていただいた。3つめは、地域のニーズをしっかりととらえること。教室を開いてもなかなか人があつまらないこともある。やはり地域や大学生のニーズをしっかりととらえなければならぬとお話しいただいた。

特にソフト面の充実に関しては、しっかりと実働できる人材を確保すること、スタッフが

楽しいと感じること、「やらねばならない」ではなく「やってみたい」が実現できることが大切であると報告された。

◇ 「クラブ設立時の課題と設立後の展望」

東宇治スポーツクラブ（京都府） 野口智子 氏

野口氏からは、クラブの設立から自主運営に向けた取り組みについてお話しいただいた。今思えばこうしておけばよかったこと、これからの展望、クラブを創ってよかったことなどについて報告いただいた。今思えばこうしておけばよかったことに関しては、机上で決めたことではうまくいかないの、現場経験の中から、作り上げていくことが必要である。たとえば、参加費などは現場が動いてから決めておけばよかった。はじめは教室に来る人から当日に集金していた。そうすると、参加会員が少ないと赤字が出るので、現在は、月ごとに教室会費をいただいている。現在、会員が200名で、実際の実務は、指導者をのぞくと私だけになっている。準備委員会で30名いたのが、運営スタッフとしてのこっているのは3名しかいない。設立がゴールではなくスタートであることをうまく説明してよりたくさんの人に関わってもらうことが自主運営に向けて重要である。クラブができて、知り合った地域の人たちが自ら懇親の会をもってくれたり、中学校に入った子どもが学校の部活ではなくクラブにずっと参加してくれていることなどをみると、クラブを創ってよかったと思う。クラブづくりに過程では、悩んだり迷ったりすることが多いと思うが、「クラブを立ち上げようと思ったときの気持ちを忘れないで頑張りたい」とみなさんにエールを送られた。

◆ シンポジストと参加者との質疑応答

Q：これからの展望；将来的にやっていけるのか

柴山氏：やれることから、やれる範囲でやっていく。そこに可能性が見えてきた。

野口氏：使っている施設に指定管理が入る。そうすると、うちのクラブと同じような教室が開かれる可能性がある。その面で少し不安がある。

Q：設立準備でこれは役に立ったことは？

柴山氏：先進クラブの視察や研修会など、スタッフが、自分たちで考えようという気になる場をつくることがよかったと思います。

野口氏：補助金をもらっている間に少しでも運営資金をためておくことができてよかったと思います。

☆ 最後に、先進クラブの方から、運営が始まるとなかなか冒険できないので、設立準備中にたくさん教室をひらいて、試しておくことが大切であるというアドバイスをいただいた。

☆ グループディスカッション ☆

新規育成指定クラブ（3グループ）

「クラブ創設に向けてこれから半年間でやるべきこと」を考える

今回の新規育成指定クラブは、「クラブ創設に向けてこれから半年間でやるべきこと」に関

して、3つのグループに別れ話し合った。グループには、各府県の体育協会担当者、クラブ育成アドバイザー、地方企画班および先進クラブの代表者が同席し、これからの半年間のアクションについて話し合った。

「地域の人にいかに周知してもらうか」「どんな事業をおこなうのか」「いかに財源を確保するのか」など、各グループそれぞれにクラブづくりに関する様々なことが話題に出された。ここでは、少ない人数で各クラブ個別に「これから半年間何をしていくべきなのか」ということを話し合った。それぞれのクラブがもっている課題に関して、その背景を考えながら、体育協会担当やアドバイザー、先進クラブの方たちが、それぞれのクラブのこれからやるべきことについてアドバイスをおこなった。



継続育成指定クラブ（3グループ）

継続育成指定クラブは、下記の3つのテーマに分かれてグループディスカッションをおこなった。新規育成指定クラブと同様、各グループには話し合いをリードしアドバイスをいただける人が同席した。



① 「行政とのパートナーシップとクラブ組織づくり」

行政とのパートナーシップについては、「行政がバックアップしている」というお墨付きがあるだけでも活動がやりやすくなる。また学校との関係をとるためには行政とうまくつきあっていかなければならないことが確認され、体育指導委員の関わりなどについて話し合われた。その後クラブ設立に向けた様々な課題について意見が交わされた。

そのほかは、プログラムを展開する時はターゲットを絞った方が良く、2年間の委託金はクラブ創設の先行資金となること、アンケート調査でのニーズを反映することとスタッフの想いをうまく取り込んだプログラムが大事であることなど話し合われた。

② 「財源確保と会費設定」

財源確保に関しては、地元企業や商店にスポンサーを募ったり、自販機を活用したりすることなどが紹介された。ただ山間部など企業がないところは工夫が必要である。

会費設定に関して各クラブの方々は、苦慮されているようであった。特にクラブでは、使用料・謝金・消耗品費・賃金など必ず必要になる費用があり、その費用をしっかりとまかな

えるかどうかポイントとなる。スポンサーや補助金がなくて年会費と参加費ですべてをまかなうためには、会費・参加費の設定をどのようにすればいいのかが課題として提示された。また参加費を他のクラブを参考に決めようと思っても、規模などが違うので参考にならないことなど、各クラブの状況を確認しながら話し合いが進められた。

③ 「運営に関わる仲間・人材の確保」

はじめに各クラブの活動報告がなされ、それぞれの課題を確認し合った。共通する課題としては、「住民のスポーツ（クラブ）に対する意識」をあげることができる。人材の確保にしても、仲間づくりにしても、「自分たちのことであるから自分たちでやる」という意識を持ってもらわなければ総合型クラブの育成は難しいと考えられる。たとえば、ロゴマークを募集してもほとんど応募がなかったり、スポーツは誰かがお膳立てしてくれるだろうと思っておられ、事務局への協力がなかったり、「私たち意識」をいかにはぐくむかがポイントとなると考えられる。また山間部では村の中央に集まるまで1時間もかかることがあり、人の輸送について考えなければならないという課題等も出された。

まとめ（近畿ブロック地方企画班長）

クラブを創るときには、いままでのチーム活動と何が違うのかをみんなが理解しなければならない。会費について例をあげると、「クラブ会費」は「私たちの理念に賛同しました料」である。いままでは会費を払うと、それが活動のためのお金ということだった。しかし、地



域のために組織をつくり多様なニーズに応えていく総合型クラブは、クラブ自体の運営費が必要になる。このお金は、地域のみなさんのためにクラブがイベントや広報、クラブマネジャー給金など様々な活動に使われている。今までとの違い、つまり総合型クラブの理念を住民みんなが理解してもらえるような活動を継続して行わなければならない。これからのみなさんの活躍を期待したい。

（報告：近畿ブロック地方企画班長 松田 雅彦）